



## p4cみやぎ 1月研修会報告

### オンラインによる p4c みやぎ 1月研修会

1月26日(水)、オンラインによるp4cみやぎ1月研修会を開催いたしました。

研修Ⅰでは、宮城教育大学教授佐藤哲也先生に「幼児教育における対話の重要性」というテーマで講話をいただきました。研修Ⅱでは、参加者の皆さんから出していただいた問いの中から一つを選び、3グループに分かれてp4cを行いました。今回は27名の方々の参加となりました。

#### 【研修Ⅰ】

話題提供：「幼児教育におけるp4cの取組」

講師： 宮城教育大学

幼児教育 教授 佐藤哲也先生

#### 〈幼児期における対話的で深い学びをめぐる〉

○幼稚園教育要領、保育所保育指針

・「主体的で対話的で深い学び」とあるが、幼児教育の「学び」は、小学校以降の「学び」とは違う。p4cのねらいも異なる。

○言葉に関するものとして

・自分の思い、気持ち、経験を言語化する。

・コミュニケーションツールとしての「言葉」や友達の話を「聞く」力を育成する。

○就学前教育では、言語活動を展開することで“思考を深める”ことをねらっていないので、p4cで無理に深めさせなくてよい。

#### 〈幼児教育（設定保育）における言語活動とp4cの実践展開〉

①自由遊びの振り返り（体験の経験化）

遊びを通じた気づきや学びを対象化、社会化する。⇒活動を対象化する。情報共有する。

②協同的な活動（行事や発表会等をめぐる話し合い。）“非認知能力”を磨きあう。⇒対話する力（聞く、考える、自己抑制、話す）を育む。

③生活を題材とした話し合い。（道徳性の芽生え、規範意識の芽生え）⇒セーフティが保障されているコミュニティづくりに参加する。

④ファンタジー（空想力）を育む遊び。考える、

話す、耳を傾ける楽しみを味わう。⇒幼児期だからこそ楽しめる、想像力の基盤を構築する。

#### 〈幼児期におけるp4cのポイント〉

①遊びの一環としてp4cを取り入れる。

(1) 幼児の楽しめる活動を心がける。

(2) ファンタジーを広げる活動が有効である。

(3) プロセスを重視して、成果を期待しない。

(4) 保護者は点を線にする（物語る）援助が必要。

②p4cを〈芸道〉として捉えること。

(1) p4cの方法論を〈型〉として理解する。

(2) 〈型〉を身に付ければ幼児だけでもp4cごっこができる。

(3) 〈型〉を極めていくと、独創性が芽生えてくる。

(4) 幼児対象のWRAITECのありようを検討する。

③幼児理解の一助としていく。

(1) 幼児の発言を素直に受け止める。

(2) 幼児の発想やファンタジーを楽しむ、

(3) 幼児の身体性(まなざし、姿勢等)に注目する。

#### 【研修Ⅱ】

本日の問い：「子供たちにとって、幸せな未来とはなんだろう。」

#### 〈Aグループ〉

○多くの選択肢の中から、好きなこと、やりたいことを決定し、自ら進むことができる力を育てること。

○夢を持つことができ、夢に向かって進むこと。挫折しても、やり直しができること。

#### 〈Bグループ〉

○安心感が持てる、心が温かくなるような社会。

○自己実現ができるような未来になれば幸せと感じるのではないのか。

○幸せであることを感じ取れる力や感性を生むには、大人が見本を見せる。

#### 〈Cグループ〉

○子供たちは大人たちの姿を見ている。大人たちが、自分の幸せに向かう姿を見せることが大切。

○不安な情報が流れている今にあっても、子供たちは毎日楽しそうだし幸せそうだ。今が幸せと感じることで未来が拓けていくのではないのか。

HP (<https://p4c-miyagi.com/>)

Mail ([p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp](mailto:p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp))